

第109回「防災まちづくり談義の会」レポート

(防災塾・だるま・ホームページ: <http://darumajin.sakura.ne.jp/>)

平成26年7月

日時: 2014年7月25日(金) 18:00-19:30 場所: 神奈川大学 24号館 310号室

◆主 催: 防災塾・だるま

司 会: 佐々木さん 記 録: 中島さん

◆談義の会参加者: 会員 20名 一般 4名 計 24名 (敬称略)

(会員) 池田、伊東、荏本、小原、高松、中島、田中(喜)、山田(美)、片山、田中(晃)、大西、
玉井、樋口、佐々木、鈴木、石井(邦)、松井、磯野、稲垣、佐藤先生(顧問)

(一般) 増田佳恵(葉山市) + 3名



★今日の話のポイント

- ・なぜ、火山対策が必要か
- ・横浜市の火山対策は
- ・火山対策の課題と今後の対応

テーマ: **横浜市の火山対策**

講 師: 桜井 清二 氏(横浜市総務局危機管理室 危機対処計画課長)



《なぜ、火山対策が必要か》

- 「東北地方太平洋沖地震」発生後、日本列島は火山活動が著しく活発
- 今世紀中に大規模な火山災害が発生してもおかしくない(1707年富士山宝永噴火に似ている)
- 東日本大震災からの教訓＝大規模災害の再来を想定し、日頃から備えることが大切

●横浜市が想定する火山は: 富士山(1707年宝永噴火)

●火山灰処分量の目安: 約10億5千万トン(東日本大震災のガレキ総量1,595万トンの約65倍)

●「火山灰とは?」: 粒子が細かい(2mm以下)、マグマが噴火時に破碎・急冷したガラス片・鉱物片、
亜硫酸ガスなど火山ガス成分が付着、水に濡れると酸性を呈し導電性を生じる、
硫酸イオンは金属腐食の要因、濡れた火山灰は乾燥すると固結する

★数cmの火山灰で交通機関は全滅し、大都市機能はマヒする(経済的損出は甚大)

《降灰による被害予想》

- | | |
|-------------|-----------------|
| ●健康障害 | 目・鼻・のど・気管支の異常など |
| ●建物被害 | 一部家屋等の倒壊 |
| ●交通被害(道路) | 5mmで通行不能 |
| ●交通被害(鉄道) | 導線不良による輸送の混乱 |
| ●交通被害(航空) | 運行不能 |
| ●ライフライン(水道) | 給水量の減少、不能 |
| ●同上(電気) | 機能低下、停電 |
| ●同上(通信・放送) | 電波障害、電子機器障害など |
| ●農林水産業 | 商品価値の喪失、枯死、収穫減 |
| ●建築・製造・商業 | 物量等の不足による操業不能 |



《市民の協力》

- ・噴火情報や降灰予報等正確な情報を入力
- ・外出は控える(外出時は帽子、マスク、ゴーグル着用)
- ・ライフラインが寸断された場合に備え備蓄
- ・不要な自家用車の使用を避ける
- ・大量の火山灰で木造家屋は倒壊のおそれ、避難をする
- ・自宅の火山灰は、二重のごみ袋で、指定場所に廃棄

次回(第110回)のご案内

- ・日時: 8月22日(金) 18時~19時30分
- ・会場: 神奈川大学 1号館 301号室
- ・話題: 首都圏を襲った台風と火災旋風
- ・講師: 相原延光氏(関東学院高等学校講師)